

問合先: 岩手大学教育学部

〒020-8550 岩手県盛岡市上田3丁目18番33号 TEL.019-621-6504 FAX.019-621-6600
E-mail: edujim@iitate-u.ac.jp URL: <https://www.edu.iitate-u.ac.jp/master/>

「教育実践研究の成果」を更新して公開中
教職大学院ホームページにてご覧いただけます!

<https://www.edu.iitate-u.ac.jp/master/>

岩手大学大学院教育学研究科研究年報

岩オンオンラインISSN 2432-924X

●田代高章・菊池新司他16名(2024) 岩手町「いわてまち学」を中心とする小中高一貫カリキュラムの開発

●立花佳帆・中村好則・山本獎(2024) ストラテジーの獲得が学習理解に与える影響 - 中学校数学多項式の授業におけるノート分析を通して -
他12編掲載、教育学研究年報 第8巻



M2 滝沢 咲

〔学卒院生、授業力開発プログラム〕

この2年を通し、授業・子ども・物事に対する「自分の見方」だけではなく、周囲の先生方からの「自分の見え方」も変わったように感じる。それは、「教職大学院の」という枕詞を自分につけて認識されるようになったということである。かけがえのない2年間の学びを得た自分に誇りをもちつつ、謙虚な気持ちをもって周囲の先生方、子どもから学び続ける教師でありたい。

教育実践研究発表会

M2 宮崎 烈

〔学卒院生、授業力開発プログラム〕

教職大学院での2年間の研究を15分にまとめることは簡単ではありませんでしたが、最後まで自分の研究と向き合い、誇りをもって発表することが出来ました。今後は、学校や子どもたちに還元できるよう省察を深め、2年間の学びを生かして理論と実践を往還させながら、より良い教育実践に繋げていきます。

教育実践研究・中間発表会

M1 及川 洋

〔現職院生、特別支援教育力開発プログラム〕

特別支援学校におけるICT利活用の促進は、重要な課題の一つです。私は、大学院の授業や指導教員によるゼミでの学びを活かし、「特別支援学校における各教科等の資質・能力と情報活用能力の育成を両立する授業づくりの要領」をテーマに研究を進めています。中間発表を終え、多くの助言をいただきました。残された1年を大切に研究に取り組み、学校現場に還元できる成果を目指していきます。



教職大学院を修了して

M2 甘竹 浩枝

〔現職院生、子ども支援力開発プログラム〕

年代も校種も異なる院生、専門的な視座からご指導くださる教授の先生方、実習を支えてくれた研修先の先生方や子どもたち。今、この2年間で出会えた全ての方々へ、感謝の念は堪えません。幼・保から小学校、中学校を経て高等学校へとつながる「一人の子どもの育ち」を支えられる存在であるよう、今後も研鑽に励んでまいります。

教職大学院の日々

M1 水梨 弥夕

〔学卒院生、特別支援教育力開発プログラム〕

教職大学院での学びの日々は、理論と実践の往還を通じて教育の本質を深く探求する貴重な時間です。実践的な知識を積み上げる中で、特別支援教育の重要性をより強く実感し、子ども一人一人のニーズに応じた指導や支援の必要性を再確認しました。今後、特別支援学校の教員として、この学びを活かし、一人ひとりの子どもたちが自分らしく成長できる環境作りに向けて学びを深めていきたいと思います。

教育学研究科教員
メッセージ

実務家教員 菊池 新司

令和6年12月、中教審への諮問内容には、「これから我が国を担う子供たちは、激しい変化が止まることのない時代を生きることになります」とあります。実際、気象庁によると、2024年の日本の年間平均気温は過去最高を記録し、2019年以降の6年間が上位を占めています。この状況を受け、どのように感じるでしょうか。

「異常気象が増えるのは」不安や恐怖、「もうどうしようもない」無力感、「なぜ対策が進まないのか」不満、「気候変動の原因とは」本質を問う。一方、「何ができるか」行動を起こす、「仕方ない」適応し、猛暑対策を考える等。

気候変動だけでなく、様々な社会の変化について授業でどのように学べるでしょうか。例えば、①社会の変化が生活に与える影響を学び、身近な問題として捉える、②背景を分析し、データや資料を活用して考察する、③多様な情報から信頼のものを見極め、根拠に基づいて判断する、④異なる視点を共有し、対話を通じて新たな気づきを得ながら共に解決策を探る、⑤変化を前向きに捉え、自ら考え行動する、といった学び方が考えられます。

岩手県は沖縄県と連携し、高温に強いコメの品種開発を進める方針です。このような取組は、社会の変化に適応しながら持続可能な未来を築く一歩となります。異なる価値観を持つ他者と対話し、問題を発見・解決できる「持続可能な社会の創り手」を育てることが、今後ますます重要になります。